

若者の選挙のイメージ

法学部2回生



なぜ堅苦しいと感じるのか…

選挙が硬いイメージ = 義務感が強い

20代、30代の性別ごとのデータ

個数 / 選挙は国民の義務である	投票		
選挙は国民の義務である	した	しなかった	総計
そう思う	31	17	48
男性	14	4	18
女性	17	13	30
どちらでもない	13	21	34
男性	7	9	16
女性	6	12	18
そう思わない	3	13	16
男性	3	5	8
女性		8	8
わからない		4	4
男性		3	3
女性		1	1
総計	47	55	102

個数 / 選挙には参加すべき	投票		
選挙には参加すべきである	した	しなかった	総計
そう思う	47	52	99
男性	24	19	43
女性	23	33	56
わからない		3	3
男性		2	2
女性		1	1
総計	47	55	102

20代、30代の性別ごとのデータ

※未回答者除く

個数 / 仕事・用事	投票		
仕事・用事	した	しなかった	総計
仕事や用事があった	29	39	68
男性	13	15	28
女性	16	24	40
仕事や用事がなかった	18	13	31
男性	11	4	15
女性	7	9	16
総計	47	52	99

個数 / 面倒	投票		
選挙が面倒	した	しなかった	総計
面倒だった	15	39	54
男性	6	14	20
女性	9	25	34
面倒でなかった	31	12	43
男性	18	5	23
女性	13	7	20
総計	46	51	97

個数 / 遊び	投票		
遊びの予定	した	しなかった	総計
あった	13	18	31
男性	7	5	12
女性	6	13	19
なかった	32	33	65
男性	16	14	30
女性	16	19	35
総計	45	51	96

選挙 ≠ 義務
選挙 = 権利

選挙 ≠ 義務と感じていないのなら
何がここまで堅苦しく感じさせるのでしょうか？

チョコッと話

昔の人の考え方と今の人の考え方のギャップ

今までの伝統を受け継いできたこと

具体的な解決は...？



イリノイ州シカゴ
左：ビール製造会社
右：コインランドリー

参考文献

<https://www.businessinsider.jp> 9月5日閲覧

具体的な解決は...？



テキサス州ヒューストン

左：食料品店

右：恐竜が投票の呼びかけ

参考文献

<https://www.businessinsider.jp> 9月5日閲覧

具体的な解決は...？



左：アメリカの投票証明書
右：日本の投票証明書（投票済証）

参考文献
<https://www.buzzfeed.com> 9月5日閲覧

具体的な解決は...？

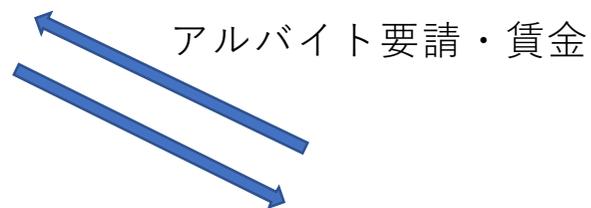


左：オーストラリアの投票所
右：インドの政党のシンボルマークを
覚えてもらう方式



参考文献
<https://www.buzzfeed.com> 9月5日閲覧

具体的な解決は...？



有権者の名前入りハガキ



有権者登録ハガキ



有権者の名前入りハガキ





を取り入れる

教育方針の見直し

若者の選挙のイメージ

私たち若者の大半が選挙に抱いているイメージというものは、よい印象のものばかりでない。私の意見として、選挙や投票所のイメージは圧迫面接のようにピリつき、硬い雰囲気漂っている。

では、なぜ堅苦しく感じてしまうのか。ここで、1つの仮説を立てた。その仮説にのっとり、データ分析していこうと思う。

仮説

- ・選挙が硬い＝義務感が強い

<表 1>

個数 / 選挙には参加すべき	投票		総計	
	選挙には参加すべきである	した		しなかった
そう思う		47	52	99
男性		24	19	43
女性		23	33	56
わからない			3	3
男性			2	2
女性			1	1
総計		47	55	102

表 1 より、選挙に参加すべきだと感じている若者は 97% 感じているのに対し、実際その中で投票している若者は 47% しかいない。この結果よりわかることは、政治に関わろうとする姿勢は見られるが、実際、行動できていないことが明らかとなった。

<表 2>

個数 / 選挙は国民の義務である	投票		
	選挙は国民の義務である した	しなかった	総計
そう思う	31	17	48
男性	14	4	18
女性	17	13	30
どちらでもない	13	21	34
男性	7	9	16
女性	6	12	18
そう思わない	3	13	16
男性	3	5	8
女性		8	8
わからない		4	4
男性		3	3
女性		1	1
総計	47	55	102

表 2 より、選挙は国民の義務であると感じている若者は 47%中、30%が投票に参加している。よって、選挙を義務だと思っている若者は少数であることが明らかとなった。

<表 3>

個数 / 仕事・用事	投票			
	仕事・用事	した	しなかった	総計
仕事や用事があった		29	39	68
男性		13	15	28
女性		16	24	40
仕事や用事がなかった		18	13	31
男性		11	4	15
女性		7	9	16
総計		47	52	99

<表 4>

個数 / 遊び 遊びの予定	投票		総計
	した	しなかった	
あった	13	18	31
男性	7	5	12
女性	6	13	19
なかった	32	33	65
男性	16	14	30
女性	16	19	35
総計	45	51	96

<表 5>

個数 / 面倒 選挙が面倒	投票		総計
	した	しなかった	
面倒だった	15	39	54
男性	6	14	20
女性	9	25	34
面倒でなかった	31	12	43
男性	18	5	23
女性	13	7	20
総計	46	51	97

また、表 3,4,5 より、予定なども特になく投票に参加しなかった若者が半数以上いることから、選挙を義務ととらえているのではなく権利ととらえている若者がいることがわかった。

冒頭で立てた仮説「選挙が硬い=義務感が強い」は成立しなかったが、選挙≠義務と感じていないのなら、何がここまで選挙を堅苦しいものだと感じさせるのか。私見として、現代の若者たちと高齢者との間の考え方の格差が原因と考えられる。例えば、私が祖父と会話をしているときに、昔を生きてきた人が話す、頭の固い考えをよく聞くのだ。また、今日の日本政府の政策は大日本帝国憲法から日本国憲法へと改正された後から、少しずつ変化はあったものの、大きな変化を見せなかった。つまり、昔の伝統を引き継ぐと同様、その年代を生きて人も今の時代へと流れついている。だからこそ、今の若者には適さない硬い雰囲気は漂うのだ。

この現状を打破するために、海外で行われている事例を紹介する。写真 1,2,3 は投票所が日本と異なり身近な場所であったり、普段は入れない場所で行われていたりとてもユニークだ。写真 4 は市民が恐竜の被り物を着て投票を促すといった、選挙に対して積極性が見られる。また、写真 5 では日本の投票済証（投票証明書）の代わりにシールを配布するといった工夫がみられる。その他にも、写真 6 のように投票所に行けば支給品がもらえたり、写真 7,8 のように政党のシンボルマークを覚えて投票に行くといったシステムもある。



写真1：イリノイ州シカゴ ビール製造会社 写真2：シカゴ コインランドリー



写真3：テキサス州 食料品店



写真4：テキサス州ヒューストン 投票呼びかけ



写真5



写真6：オーストラリアの投票所でソーセージ



写真7：インド 政党のシンボルマークを覚えてもらう方式



写真8

アメリカでは選挙の度に、中学生に選挙のアルバイトをしてもらうのだという。仕組みとしては、民主党・共和党から有権者に登録してもらうためのハガキを有権者に書いてもらうように、スーパーの前等に中学生がいる。その中学生は有権者から名前を書いてもらうと3日以内に民主党・共和党に持っていき、その枚数でお給料が発生するというものだ。この政策も、これから有権者となる子どもに、選挙とは身近なものであるという認識が生まれるいい機会となっている。また日本でも、選挙を身近に感じてもらうという取り組みが始まっている。その取り組み名は、「センキョ割」といい、投票したことを示す証明書を飲食店や専門店で提示したり、投票所の看板等を自撮りした写真を見せれば、お得なサービスが利用できるというものだ。例えば、ラーメン店では替え玉、喫茶店ではコーヒー100円引き、居酒屋では唐揚げが一皿無料、等がある。(写真9参照)



写真9

上記で紹介した事例のように、今日、日本で行っている選挙に対する意識の改革を踏まえ、日本の制度に沿った形で海外の事例をちょい足ししていくことが、この硬い雰囲気打破していく鍵になると考えた。選挙がどれだけ身近なものであるか、若者の興味を引ける政治家が現れば、より面白いだろう。また、これから日本を背負っていく未来の有権者に向けて、学校の教育方針を見直す必要があるのではないかと考えた。

参考文献

各地の投票所で長蛇の列！写真で見る、米中間選挙

<https://www.businessinsider.jp> 9月5日閲覧

あまり知られてないけど、海外の選挙が日本と違っておもしろい！

<https://www.buzzfeed.com> 9月5日閲覧

会社を休んで、選挙に行け！

<https://www.nhk.or.jp> 9月5日閲覧